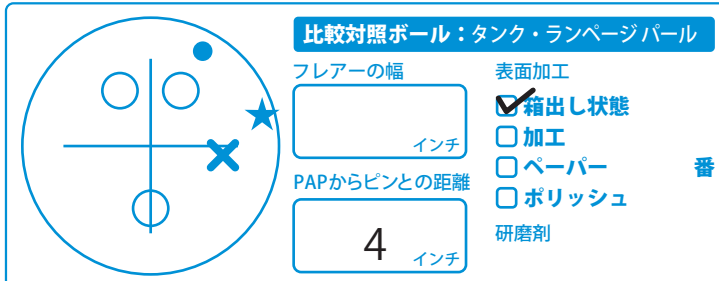
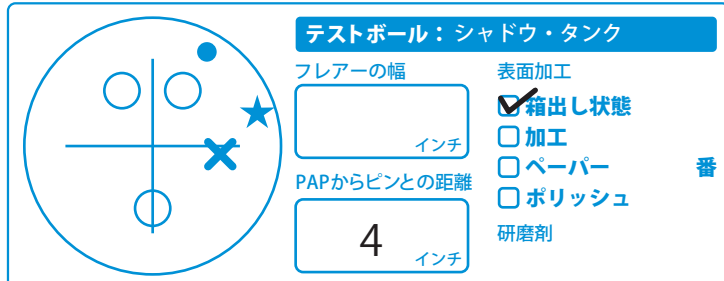


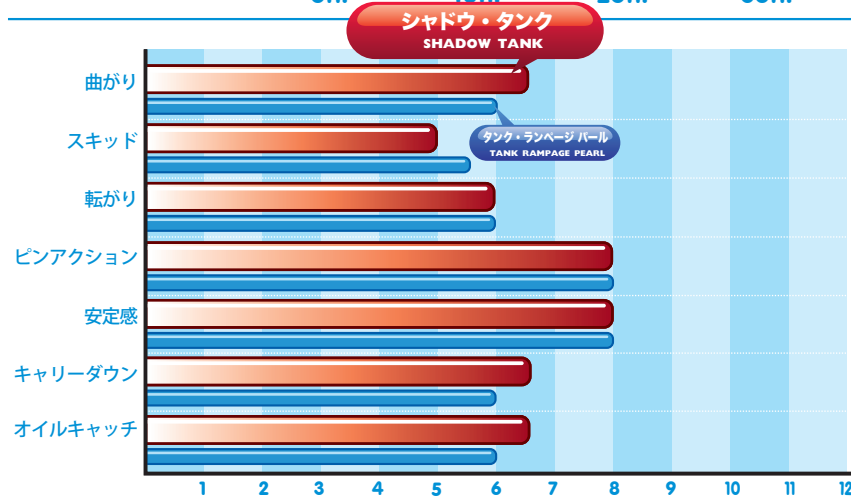
ボールの特性レポート BALL REPORT

ABS

ボール名	シャドウ・タンク	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.570	△RG	0.015	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	



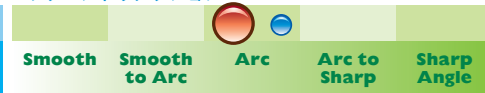
ヘビー
ミディアム
ライト
バフ



レーンコンディション



バックエンドリアクション



レンジス



ボール の評価

長年にわたり磨かれてきたMicrocell Polymer (MCP)テクノロジーの集大成として登場したこのモデルは、まさに“コントロール特化型の究極形”です。新素材Frixion M7 Pearl MCPカバーがもたらすのは、ウレタンのような滑らかな軌道と、反応の均質性で、従来のウレタンでは得られなかった“持続性と読みやすさ”を兼ね備え、荒れたレーンコンディションでもラインを明確に描きます。前作TANK RAMPAGE PEARLに採用されたFrixion M6よりも、SHADOW TANKのM7カバーはやや早く掴み、先の動きが大人しい特性を持ちます。これにより、バックエンドでの急激な起き上りを抑え、よりフラットで滑らかなモーションを生み出し、特に中盤以降のブロックで、オイルが伸び、レーンが“読めなくなる”状況下でも安定してポケットを突ける点が大きな強みです。Duramax Additive技術の採用によって表面仕上げの持続性も向上し、長時間にわたり一定の摩擦特性を保ちます。試合後半に性能が落ち込まない点は、トーナメントプレイヤーにとって非常に心強いです。そして搭載されたFlux コアは、弱めのコア設計ながらカバーとの組み合わせで絶妙なバランスを実現し、全体の動きは極めてコントロール志向となっています。手前の走りはスムーズで、ミッドレーンでは“読みながら転がる”安定感があり、バックエンドでの反応も非常に穏やかで、狙ったラインを外すことなく、ピンに向かって一直線に進みます。SHADOW TANKは「MCPの粘りと制御」に焦点を置いており、つまり、走りよりも安定、キレよりも読める動きで、ウレタンのように手前で落ち着き、ポケットに向かってじわりと寄る軌道は、まさにタフなコンディション下で真価を発揮します。表面が荒れた状態やキャリーダウンの多い後半ブロックで、暴れず、止まりすぎず、淡々とポケットに集約する挙動は他のボールにはない安心感を与えるでしょう。

特記事項

SHADOW TANKは「コントロールで勝つ」ためのボールで、ラインを読めなくなった時、周囲が迷い始めた時にこそ、このボールの存在意義が際立ちます。MCPテクノロジーの進化がついに到達した“静の究極”。それが、SHADOW TANKです。